（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0177600301		
法人名	有限会社　共生會		
事業所名	ぐるーぷほーむ樹林		
所在地	北海道石狩市緑苑台東3条3丁目255		
自己評価作成日	平成30年11月9日	評価結果市町村受理日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600301-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	合同会社　mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	平成30年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1、　体重の3%の水分摂取（食事以外）を目標に脱水予防・便秘の改善等体調管理に活かしている。
2、　毎日昼食、夕食前に約20分程体操の実施、夏季については毎日散歩等を実施する事で体力の低下を防ぎ健　康管理に役立てている。
3、　年間を通してブリーチの0，1%液による共用場所の消毒、手洗い、うがいを実施し、又11月から5月の間は加　湿器4台を24時間稼働させほーむ内の湿度を50%程度に保つことで、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染防止を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

石狩川の水郷にも近い自然豊かな環境の下に、小規模の良さを十分に発揮している1ユニットの事業所で、開設から15年目を迎えています。平屋造りの建物のリビングホールには吹き抜けの天井に天窓が設置され、自然光も柔らかく、空間に広がりを生み出し開放感が得られています。法人代表は施設長として職員と共に日々、介護の現場に携わっており、自身が掲げた理念に沿った支援で、利用者がゆったりとした空間の中で、自分のペースを保ち、自由に、ありのままに、落ち着いた生活が営まれている様子が窺えます。利用者との触れ合いを貴重なケアとし、理念の具現化に向けた介護計画も全職員で検討し作成しています。気候の良い時期には欠かさず散歩に出かけ、昼・夕食前に体操を毎日行う等、身体機能の低下予防に力を注ぎ、介護度が入居当初と変化が無い状態を示している利用者など、有する力を活かしながら、その人らしく暮らし続ける為の支援に取り組んでいます。感染症の防止に力を入れて環境整備に努めている事、不安感を無くし、安心感に繋げる為に、トイレと入浴の支援を二人介助で行う事なども事業所の特徴の一つです。事業所行事や運営推進会議に参加する家族の応援を受け、熱意を持ち運営を展開しています。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
		○	2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）		1　ほぼ全ての家族と
		○	2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
		○	2　数日に1回程度
			3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
		○	2　少しずつ増えている
			3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティング、全体ミーティング等を通して理念を共有、日々の介護で実践している。	運営者でもある施設長は、開設当初から明確な理念を持ち、職員に確実に浸透させて行く為に、毎日のミーティングで施設長の思いを伝えながら話し合い、理念の共有に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で実施する避難訓練、夏祭り、敬老会、クリーン作戦の参加等日常的に地域と交流している。	町内会行事に参加し、事業所主催の焼肉行事は地域住民に声掛けしています。ハーモニカ演奏の地域ボランティアや実習生を受け入れています。警察の広報活動でトランペット演奏の訪問を受けたり、散歩や喫茶店で地域住民に触れ合う等、暮らしの輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の民生委員との協力、町内会の役.員会等を通して認知症の理解、支援のあり方を地域の皆さんに発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常のサービスのあり方、ほーむの取り組みを報告、会議での指導を日常のサービスに活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は市職員、町内会役員と共に、事業所行事と日程を合わせる事で多くの家族の参加を得て、感染症対策や防火対策など、事業所の運営に関わる話題を提供しています。出された意見、助言、提案は運営に反映させています。	運営推進会議は、幅広い立場や職種の異なる方々との協議の場として有益なので、多くの地域住民等に積極的に参加要請を働きかけ、議題も検討して、さらに深まりのある会議運営と共に記録の充実も期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と随時連絡をとり疑問点の解消に努め又必要な文書等については速やかに提出している。	市の担当者とは、介護業務情報の授受や報告書の提出、実務上の助言や運営についての意見を仰ぐなど連携を図っています。運営推進会議でも事業所の実情を折に触れ伝えて、協働関係を築いています。地域ケア会議やグループホーム協議会に参加し、情報共有や協議に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常ミーティングを通してほーむのあるべき姿を全員で検討する等身体拘束は絶対しない、拘束の具体例について理解し、それを活かしてケアに取り組んでいる。	今年度から身体拘束廃止委員会を設置し、委員会及び研修会を順次開催し、身体拘束の弊害について知識を深めています。また、日々のミーティング時でも事例検討を行い、身体拘束をしないケアの在り方を学んでいます。新人研修時には指針を説明しています。事業所は鍵を掛けない暮らしを実践し、抑圧感の無い支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者研修、地域ケア会議、ぐるーぷほーむ協議会への参加を通して学ぶ機会を持ち防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域ケア会議、ぐるーぷほーむ協議会の場を利用して学ぶ機会を持ち、必要な方には制度について説明し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に予め契約に必要な文書一式を交付し熟読していただき、当日はほぼ半日をかけて管理者が説明を行い十分理解、納得を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び日々の来訪時に日常のケア、行事の実施等について利用者、家族の意見を聞く機会を設け運営に反映させている。	毎月の利用料の支払い時や多くの家族の来訪がある事業所行事の焼肉会、そばの会、クリスマス、さらに行事に日程を合わせた運営推進会議など、家族の思いを聞く機会をとらえて意向の汲み取りに努めています。行事に合わせて「樹林便り」を発行し、利用者の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほーむの運営はそれぞれの職員の日常の工夫、努力なくしては成り立たない事を肝に銘じ、毎日の業務、日常のミーティング等を通して意見を聞き運営に活かしている。	運営体制は職員と共に作り上げるものと施設長は考え、毎日のミーティングは時間をかけ、忌憚の無い話し合いの中でケアサービスや業務内容を検討し、職員間で支援体制を調整しています。施設長は常に職員の意見や提案に耳を傾け、環境整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	計画的な研修の機会を設ける等のその立場に応じてやりがいと向上心を持って取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通して職員の力量を把握しつつ、本人にあった研修の機会を設ける等しながらOJTを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	ぐるーぷほーむ協議会の参加、相互訪問等の交流を通してサービスの質を向上できるよう取り組んでいる		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、体験入居等の機会を設け困っている事、不安に感じていることの把握に努め安心できる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほーむでの生活はご本人、ご家族及び職員が一致協力して築く必要性を説明、理解をいただきながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居の中で何が必要かご本人、ご家族、職員の3者で相談・確認、必要な支援を見極め病院との利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事については可能な限りご本人にして貰うことを前提に説明・見守りを適切に行いながら暮らしを支えるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最も信頼するご家族の対応が一番大切であることを説明し出来る限り関わっていただきながらともに支える関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親類縁者・友人との関係の継続がほーむの生活を充実した物とするための重要な要素であることを大切に支援している。	親類や元職場の友人などの訪問時は、居室やリビングで寛げる様に持て成しています。家族の協力で帰郷や墓参り、外食など、繋がりを継続出来る支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のかかわりが持てるよう、職員が調整役となりできるだけ相互にかかわり、支えあえるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の近況の把握を含めこれまでの関係性を大切に、相談等に乗れるようにしている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護でしっかりとアセスメントを行い、思いや意向の把握に努めている又本人本位をモットーに対応している。	利用者の半分以上が言葉での意思確認が可能なので、職員は利用者に関心を払い把握に努めています。困難な場合でも、センター方式のアセスメントシートを活用し、情報を蓄積しながら、利用者の全体像の理解に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活の延長線上にこれからの生活が成り立つことを認識し、これまでの生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の様子をしっかり観察・把握することで小さな変化も見逃さないようにミーティング等を通して把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回、変化のあった時にはその都度モニタリングを行い介護計画を変更・作成している。	見直し時期にはケア会議を開き、センター方式のアセスメントシートを活用しモニタリングを行い、職員間で協議して作成しています。介護計画は家族に説明して承諾を得ています。定期見直しは6ヵ月毎に行い、状態が変化した際には随時見直しをかけています。	前回の期待項目の継続として、介護計画に沿ったケアサービスの実践の記録が不明瞭で連動性が見受けられないため、記載の工夫と充実を図る事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの変更・作成時には全員でアセスメント、モニタリングを行い情報を共有し実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院との連携、ボランティア・訪問美容の活用等多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、町内会、警察、消防等と協力しながら安全な暮らしを楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時及び必要な時には、本人・家族等と相談しながらなじみのかかりつけ医の診療が受けられるよう支援している。	協力医療機関を主治医とし、月2回の往診を受けている利用者が殆どですが、入居前からのかかりつけ医や専門医への通院は、職員と家族の協力の下に支援しています。居宅療養管理指導報告書が協力医から提供され、内容は家族にも報告しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化、体調等の小さな気付きは看護職員と相談・意見交換しながら適切な看護、受診につなげている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通しての情報交換あるいは管理者等が病院との情報交換、見舞いに行く等により関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の対応方針等について説明、本人の状態を確認しながら主治医を交えて必要に応じ話し合いを行い対応している。	入居時に「重度化ケア対応指針」を説明し、同意を得ています。看護職員の配置が厳しく、医療連携体制が整わないことから事業所での看取りは行なえず、医療機関等への移行を支援していますが、終末期支援のあり方を医師を交えて話し合い、現状でどこまでの支援が出来るか見極めながら、家族のニーズに沿うケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習に参加する等救急手当の重要性について認識を持ち実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から災害時に必要な物品を準備、又消防計画を作成、年2回の消防署立会いの避難訓練を実施している	昼・夜想定の火災避難訓練を年2回、消防署の指導を受けて実施していますが、地域住民の参加には至っておりません。地震や水害等の自然災害時対策も具体化されておりませんが、災害用の発電機を備え、飲料、食料等の備蓄の充実を図っており、町内会の避難訓練に職員が参加する等、防災意識は高まっています。	地域住民の避難訓練への参加や具体的な地域の協力体制について、運営推進会議で協議を持ち、積極的に参加要請に取り組み、更なる防火対策強化に努める事を期待します。また、訓練も火災に加え、水害、地震等の自然災害や予期せぬ事態を想定した災害対策への取り組みにも期待します。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格等を把握し、誇り、プライバシーを損ねないように声かけに注意している。	理念を念頭に置き、施設長は利用者の人格や尊厳を損なわない言葉使いや態度に気を付ける様に職員に指導しています。個人情報の管理は事務所にて適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床、就寝の時間を始め本人の意志を尊重しあるいは2～3の選択肢を準備、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者のペースを大切に、できるだけ思いのままに生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴、趣味趣向・希望を大切にその人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けを一緒に行い、食事もいつも一緒に入居者と会話を楽しみながらしている。	メニュー、レシピ、食材の購入は業者に委託し、栄養バランスが良い食事となっています。季節の行事食に加え、誕生日・寿司の日・肉の日を企画して、出前を取りいれた特別食を工夫する等、食事への関心を引き起こしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を基本とし摂取量、栄養バランスは看護職員、栄養士等と相談しながら支援、水分は体重の3%を目標として支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ介助、一部介助を行い清潔、口腔内の健康を保持するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時のトイレ誘導により排泄の失敗を極力減らしトイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を基に、時間や習慣を把握し本人の生活リズムに沿った支援で、殆どの利用者がトイレ排泄を可能にしています。下着や衛生用品の使用は、一人ひとりに応じて検討しています。二人介助支援を基本に安全を確保しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の原則水分摂取、運動、食物繊維の摂取を毎日の生活の中に取り入れ予防している。又自然排便の困難な人は主治医と相談、下剤により調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回は入浴できるよう健康状態、希望により調整し、支援している。	羞恥心や不安感に配慮しながら、二人介助でスムーズで安全な入浴支援に努めています。全員が湯船に浸かり、特に長湯好きな利用者は30分近くもゆったりと寛いでいます。風呂上がりの飲物は自由に選択出来て楽しみの一つになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズム、体調に合わせて休憩、安眠が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表により理解を深め、服薬後の症状の変化についても確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	片付け、編物の支援、散歩、ドリルの実施等一人ひとりの役割、楽しみごとの実施等張り合い、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苺狩、水芭蕉群生地の見物、近隣の散歩、イオンショッピングセンターへの買物等、戸外に出かける機会を作り、本人の希望によりご家族と生まれ故郷への帰省などの支援をしている。	気候や体調、希望に応じて散歩に出かけ、時には近所の喫茶店で珈琲を味わうなど気分転換を図っています。桜並木見物、苺狩り、水芭蕉群生地見学、篠路公園の山登りなど、ドライブを楽しみ、季節を肌で感じ、心身の活性化に繋がる支援に取り組んでいます。個別対応は家族の協力の下に行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理のお手伝いをさせていただきながらお金を持つこと、使うことの大切さを感じていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、年賀状、暑中見舞いを出すことの出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を一緒に作ったり、時季の花を飾る等し、夏場は窓の開放、エアコンの使用により換気、湿度に気を配る等小さな工夫で居心地良く過ごせるようにしている。	平屋造りの建物で、玄関からリビングホールに入ると、高い天井に天窓が設置され自然光も柔らかく、共用空間は広々として開放感が有ります。エアコンの設置や加湿器の配置で温度・湿度に注意を払い、感染症予防に努めています。日中は利用者の殆どがリビングで過ごしており、利用者同士が程良い距離感を保てる様に、ソファーの配置を工夫する等、それぞれが自由に気兼ねなく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、談話コーナーにて各人が落ち着ける場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない程度に使い慣れたものを配置していただき、状況に応じて随時話し合い調整している。	居室にはクローゼットと吊り棚、利用者の体力に合わせ、安全に配慮した手摺も設置されています。殆どの調度品は事業所で用意されていますが、利用者はテレビや趣味の物、自主作品、カレンダー、時計など持ち込み、仏壇も備えて、それぞれに自分らしい居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、各所に手摺を設置する等できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		